

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニットI)

事業所番号	2779101241		
法人名	医療法人遊心会		
事業所名	リ・リブホーム (I)		
所在地	大阪市淀川区西中島6-11-31 レーベネックス4F		
自己評価作成日	令和2年3月9日	評価結果市町村受理日	令和2年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和2年4月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした環境の中で、個別性を重視したケアを心がけています。外出の機会を出るだけ多く設け、医療保険下で行われるデイケアに通う事で日々の生活に生きがいや楽しみを見つけると共に、認知症状の悪化の防止が出来るよう支援していきます。当法人内にあるクリニックとは常に連携をとり、入居者様の日常の健康管理や体調変化にも柔軟に対応しています。家庭的な雰囲気、いつも明るく、笑いの絶えない安心した生活を送れる環境づくりを常に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所名の「リ・リブ」は、RE(もう一度)Live(生きる)をつなぎ合わせた造語で、介(助ける)護(まもる)にとどまらず、新しい生活に向けて職員も一緒に歩み暮らすという、法人全体のテーマである。事業所の理念である「個性・傾聴・信頼」を三本柱にして運営されている。「入居者に対して優しく丁寧によく話を聞いてくれる」という今回の家族アンケートの結果から、理念が日々実践されていることが窺える。母体の医療法人は、精神科、老年内科、内科の診療所で、付属のデイケアセンターに利用者全員が毎日通所することにより、認知症の医療的専門ケアが受けられるだけでなく、外出の機会にもなっていて、利用者、家族の安心と満足度は非常に高い。開設時から出入り口をロックしないこと、運営推進会議をフロアで開いて一般職員も多数参加していることも、優れている点である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に掲げている「個性」「傾聴」「信頼」の三本柱を軸に、職員、入居者様共に笑顔で楽しく毎日が過ごせるような援助を心がけている。	運営理念「個性・傾聴・信頼を三本柱に、入居者様の尊厳を大切にしながら、生き生きと輝く、笑顔あふれる生活が送れるよう、必要な援助をさせていただきます。」を各フロアのリビングルームに掲げている。入職時に周知するほかに、随時ミーティングで取り上げて、職員の意識を高める努力をしている。パンフレットに記載して、家族や地域への浸透も図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の運動会や地域の盆踊り、文化祭・など季節の行事には出来るだけ参加し、交流を図るようにしている。又、ホーム内での行事の際には民生委員さんや社会福祉協議会の方を通じて、地域の方々にもお声をかけ気軽に参加できるように働きかけている。	自治会には加入していないが、地域の情報の収集に注意して、行事にはできるだけ参加している。すぐ近くに幼稚園と小学校があり、その点は立地に恵まれている。利用者は地域の一員としてコンビニで買い物したり、近くの理髪店に行ったり、公園に行ったりしている。また、利用者と職員は、定期的に建物周りの掃除をして地域に貢献している。	地域とのつきあいについて努力しているが、開設後17年になる地域密着型サービス施設としては、まだ不十分であると事業所は認識している。自治会と再コンタクトしてみるなどの改善策を、皆で検討することを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の高齢者支援室と常に連携を図り、地域内の方々への情報発信や支援に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会では報告だけではなく、ホーム内の行事に参加して頂く事で、より生きた意見を聞けるようにしている。会議には職員も出来る限り参加し、頂いた意見をサービス向上に生かせるように努めている。	利用者がいるフロアで会議を行い、職員も10名以上が参加している。事業所のイベントと合わせて開催することで、家族も参加しやすいように工夫している。議事録は大阪市の様式に従って、報告や改善点などをわかりやすくまとめられ、家族にも送付している。地域代表として、民生委員と社会福祉協議会関係者が参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区の保険福祉課と連絡を密に取り合い、紹介や相談などを通じて協力関係を築いている。	最近実地指導があり、大阪市担当課との連携があった。生活保護受給者を受け入れているので、該当者へのケースワーカーの訪問や、報告、相談などの事務連絡がある。直接出向いて話をする機会は多くはなく、市や府のホームページから情報を取得している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各フロアに「身体拘束ゼロに向けて」のリーフレットを貼りだし、職員がいつでも確認、意識出来るようにしている。又、職員一人一人にリーフレットを配布しネームプレートに入れ、いつでも確認できるように意識の向上に努めている。	身体拘束ゼロには力を入れており、開設時からエレベーターも出入り口もロックしていない。帰宅願望が強い利用者がある場合でも、見守り強化のほかに種々工夫して対応している。適正化委員会と研修は3か月おきに開催している。研修、リーフレット配付、事例検討などで職員の意識を高める努力をして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や主任は入居者様の状態に常に注意を払い、虐待を疑うような事案を発生した時は直ちに報告、対応できるように環境を作り、勉強会やカンファレンスを取り入れ防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人の先生方とは密に連携を取り、気軽に相談や教示を頂いたりできる関係にある。必要に応じてご家族様からの相談にも応じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居後とも十分に時間を設け、契約内容を丁寧に説明するよう努めている。改訂時は文書で案内するとともに、電話や面会時にも説明を行い了承を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時、苦情担当窓口の設置やご意見箱の設置について説明を行い、面会簿にはご意見欄を設け、ご家族様からのご意見などを頂戴し運営に反映させている。	日常的に面会がある家族にはその時、それ以外の家族には請求書を送る時に、必要に応じて手紙で利用者の様子を知らせている。自立度の高い利用者からは、サービス内容について意見が活発に出て、内容を記録して職員間で共有し対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行う職員面談や、ミーティングで提案の機会を設け、反映できるように努めている。	職員会議(リ・リブ会議)はフロアごとに月1回開き、また各フロアの情報共有を目的に、隔日ごとに短時間の全体ミーティングを行っている。3か月に1回は、「リ・リブの声」として挙げられた課題について、全職員から改善案や提言を聞いている。職員は積極的に意見を出し、運営やケア内容に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者やフロア主任は働きやすい職場環境を整備し希望休や有休休暇所得を可能なかぎり対応していくようにしている。昇給や賞与も年毎に検討し、常勤、非常勤に関わらず業務に責任と向上心をもって働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修やホーム内研修には、参加に片寄りがないよう日程、シフト調整を行っている。年間研修計画を作成し、院外研修も可能な限り参加の機会を設けている。研修後は職場内で報告、勉強会を開き、他職員へ周知しケア、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区内のグループホーム連絡会や、職員勉強会に参加し、交流の機会を作っている。法人内ドクターによる勉強会の開催や他グループホームとの交流を図り、サービスの向上への取り組みに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にはホームの見学や自宅訪問等を行い、不安や要望を聞き取り、安心して相談できる関係作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や自宅訪問時だけではなく、入所時にも不安や要望をしっかりと聞き取り、安心して相談できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容を把握し、必要に応じて多職種との連携を図りつつ、適切な支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様一人一人の状態や生活歴を職員間で共有し、ホームでの生活を楽しみ、出来る限り自立した生活が継続出来るように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時には、ご本人の日々の様子を必ずお伝えするようにしている。行事のある際には事前に案内し、ご家族様、入居者様、職員みんなで楽しめる関係性を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後もご家族様や友人に年賀状や暑中見舞いを送る支援をしている。ホームにはいつでも気軽に訪ねてくれる雰囲気を作り、親戚や友人との関係を継続出来るように支援している。	入居時やその後の聞き取りから、それまでの利用者の暮らしの状況(IADL)、馴染んだ暮らしと好み(嗜好、好きなテレビ番組、音楽、趣味など)の詳しい情報を知り、入居後も続くような支援を心がけている。具体的には、編み物や手芸を続けていけるように支援しているが、馴染みの友人、知人の訪問などは、入居期間が長くなるにつれて困難になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性の状況の把握に努め、共同生活が円滑に過ごせるよう支援している。定期的な食席の変更等、関係性の広がりが出るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の支援は勿論のこと、その後も必要に応じた支援、関係性を継続していく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話やカンファレンスの中で、ホームでの生活の希望や要望を把握し、職員間で共有し、出来る限り対応できるよう努めている。	運営理念の一つに「傾聴」を掲げて、利用者とは会話することを重視し心がけている。そこから聞き取った利用者の意向や思いを記録し共有している。その結果、種々の対策をしたうえで、利用者単独の外出や好きなラーメンを職員と一緒に食べに行くなどの実践に結び付けている。	理念の理解と実践は相変わらず実施しているが、以前と比べると、できていたサービスが低下傾向にあることを職員自身が感じている。人手不足など困難な問題があるが、皆でそのことを意識して、より良い取り組みを図ることを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には担当ケアマネとの情報交換を行い、本人やご家族様からもお話を聞く時間をしっかりとるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子は記録に残し、職員間で共有している。カンファレンスやモニタリングを定期的に行い、状況の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様やご家族様から生活等に対する意見や希望をモニタリングしケアプランに反映させている。職員へのモニタリングやカンファレンスで出た意見を元にアセスメントを行い、ケアプランを作成している。	介護サービス計画書は、利用者のADL、IADL、生活の仕方の思い、意向から導き出された援助目標、内容が書かれた、大変わかりやすい現状に即した内容となっている。日々の記録により毎日モニタリングした結果を、初期は3か月、それ以後は6か月ごとに評価したうえで計画を更新し、サービス担当者会議の開催と家族への説明を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はリーダーが取りまとめて記録し、夜勤帯は夜勤勤務者が記録している。申し送りを確実にし、記録の確認後はサインし、情報の共有に努めている。ケアプランの更新時には、記録はモニタリングの一つとして活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携、訪問看護などを利用し体調管理や急変に迅速に対応できる環境にある。ご本人の状態や希望に応じて、通院や送迎等、必要な支援に柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コンビニや喫茶店、美容院等は近隣のお店を利用し、馴染みの関係が出来ている。運動会や地域行事への参加も継続して行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は法人内の医師となっているが、専門科受診は入居者様やご家族様の希望を優先している。複数の医療機関との連携もあり、適切な受診が出来る様支援している。	入居時に利用者、家族に説明し話し合っ、内科、精神科は全員が協力医の往診を受けている。以前からの専門科には、家族の同行を原則に通院している。診療所の看護師が週1回訪問して、利用者全員の健康状態を把握し、各医療機関と連携をとっている。24時間対応の医療連携支援体制を整え、家族、利用者の安心と信頼を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の訪問看護と契約し、日々の健康管理や医療的処置など必要な援助を受けられるように支援している。受診のタイミングや看護のアドバイスを気軽に相談する事も出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の地域医療連携室には、受診や入退院時は相談をし、安心して治療できるように支援している。担当医師や看護師との面談の時間を確保し、適切治療を受け早期に退院できる支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの受け入れはしていない為、終末期の対応指針を定め説明している。ホームでの生活の継続が困難な状態になった時は適切な医療機関や施設との連携をし、入居者様とご家族様が安心してサービスを継続出来る様支援している。	入居時に、事業所では看取りをしていないことを利用者、家族に伝えて、了解してもらっている。利用者が重度化して、事業所での生活が困難になってきたとの医師の判断があった時には、家族、医師、看護師、事業所が協議して、適切な医療の場または生活の場へ円滑に移行できるような支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で救命救急研修を定期的を実施している。ホーム内にはAEDと救命応急セットを備え、使用法などは研修で実践勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、法人全体での避難訓練を実施している。地域の防災訓練にも参加し、情報の共有を図っている。	法人全体で年2回の火災避難訓練を、利用者も参加して実施していて、事業所独自の避難訓練もしている。地域の防災訓練には職員が参加している。事業所は耐震のビルの上階にあるので、水害、津波、地震は想定外だが、備蓄品はリスト化して管理している。近隣はビル街で、事業所は自治会にも未加入で地域の協力体制は弱いですが、法人の施設が近くに複数あるので、そこでの相互援助が期待できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を人生の先輩として尊敬し、尊厳とプライバシーを守るよう努めている。ミーティングでは言葉遣いや声かけ等について話し合い、職員間で意識確認している。	自立度の高い利用者もいるので、書類を事務所から出さない、名前の書いてあるものはシュレッターにかけるなど、書類管理には特に気を付けている。運営理念に「個性」を尊重することを掲げていて、今回の家族アンケートからも、実践に結びついていることが窺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の入居者様の様子などから、希望や思いを汲み取り、それを伝える事が出来るような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	デイケアやレクリエーションの参加は体調を見ながら促し、入居者様自身が選択出来るよう支援している。日々の生活は入居者の希望を優先しその人らしい生活出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容院は近隣の馴染みの所へ希望に応じて行けるよう努めている。好みの洋服を選び、化粧をするなど、いつまでもおしゃれが楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の簡単な準備や、配膳、片付けなどその人が出来る事を無理せず一緒にしたり、外食や出前、ランチバイキングなど、楽しく食事が出来るよう工夫している。	ご飯と汁物は各フロアで用意し、メインの料理は調理済み食品(クックチル)を利用している。日曜日は、専任職員が利用者の好みに合わせて、いつもと少し違う独自の献立で調理している。季節ごとに皆で作るバイキングや誕生日会、クリスマスや周年記念日のごちそうを、家族と一緒に摂る楽しみもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はバランスやカロリーの計算されたものが専門業者より宅配され、摂取量を記録している。状態に合わせて水分摂取を介助し必要に応じて摂取量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはその人に応じた介助をプランに組み込んでいる。定期的な口腔ケアや、急な症状が出た場合等は通院にも柔軟に対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握に努め、出来るだけトイレでの排泄が継続出来るよう支援している。	排泄が自立している利用者も多数おり、昼間は全員がトイレを利用している。夜間は、移動困難なためにテープ止めオムツ使用者が1名いるが、大多数が布か紙のパンツで、現状が低下しないような支援をしている。トイレ誘導時の声かけなどには特に注意し、尊厳を傷付けないような配慮を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、体操の時間を設け、それぞれの状態や体調に合わせて無理せず継続出来る様支援している。又、朝食時には牛乳やヨーグルト、フルーツを用意し、自然な排便に繋がるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は、基本の設定があるが、入居者様の体調や希望に合わせて柔軟に対応出来るよう努めている。又、異性介助には配慮し、安心して入浴が楽しめるよう支援している。	一日おきの入浴を基本としているが、一人で入れる利用者(見守りのみ)には、いつでも好きな時に入浴してもらっている。ゆず湯や菖蒲湯など季節を感じられる湯も実施しているが、基本的には好みの湯温で、好きな時にゆっくりとした入浴を楽しんでもらいたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は、入居者様やご家族様と相談し、安全かつ安心できる生活空間になる様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は二人のスタッフで確認を行い、氏名確認後の服用を徹底している。個人処方薬ファイルは、職員がその内容、効能、副作用を把握確認出来るようにして、薬局との連携にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	法人内のデイケアに通所し、毎日の生活に生きがいと楽しみを持てるよう支援している。買物や、散歩、外食などにも柔軟に対応出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通して外出の機会を多く持てるよう努めている。様々な場所への外出レクリエーションを年間通して計画し、地域の行事にも出来るだけ参加できるよう努めている。	隣接のデイケアセンターに利用者全員が通所しているので、それを外出の機会ととらえ、行き帰りに近所の公園での散歩やコンビニでの買い物に行くこともある。適切な対策をしたうえで一人で散歩する利用者もいる。車を使った遠方への日帰り旅行(今昔館、空港など)も企画し、希望を聞いたうえで実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所で預かり、必要時や希望時は自由に使える様支援している。自身で財布を持ち管理し、支払いをするなど、入居者様の状態に合わせて支援出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使用は、入居者様、ご家族様の希望に合わせて対応している。希望時は電話をかけたり、はがきや手紙を出すなどの支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、くつろげるように配慮したソファを置き、壁の飾りや季節の花を置くなど工夫している。家庭的な雰囲気を大切にし、入居者様が安心して生活出来るよう支援している。	リビングルームは明るく清潔に整えられ、壁には利用者の作品が貼られて、家庭的な雰囲気が感じられる。屋上庭園には花や野菜が植えられ、世話をして収穫する楽しさを季節ごとに味わっている。今回の家族アンケートでは大多数の家族が、「気軽に訪ねていきやすい雰囲気である」と回答しており、居心地の良い共用空間であることが窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各階エレベーターホールにはウッドチェアを置き、煙草を吸ったり、外気に触れながら季節ごとに咲く花に水をやったりしている。リビングでは思い思いの席でゆっくりとくつろぎ、自分なりの時間を過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、長年使用した馴染みの家具や、使いやすい家具を入居者様に合わせて配置し、安心して生活できる様支援している。	個室は8~9㎡の広さでベッド、クローゼット、下駄箱、トイレ、洗面台、カーテン、エアコン、照明、通報装置が備え付けで、すぐにでも生活ができるようになっている。利用者は好みの品々を持ち込み、その人らしい「私のお部屋」となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室をはじめ、リビング、廊下、浴室、トイレには手すりを設置し、自立した安全な生活が出来る様、工夫している。居室床はクッション性のある抗菌仕様になっている。		